



《担当講義》

- 経済原論
- 地域経済分析
- 國際経済論
- ミクロ経済解析

《研究テーマ》

- 少子・高齢化がマクロ経済に及ぼす影響およびその政策

《プロフィール》

- 出身県: 兵庫県
- 血液型: A型
- 星座: やぎ座
- 好きな言葉:

人の一生は、重き荷を背負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。(徳川家康)

《主な履歴》

- 2005年4月～2010年3月
大阪経済大学、桃山学院大学、甲南大学にて非常勤講師
- 2008年
大阪市立大学大学院後期博士課程を修了
- 2010年4月～2011年3月
大阪市立大学特任助教

「先生の研究テーマを教えていただけませんか?」

現在は人口動態の変化がマクロ経済に及ぼす影響とその政策について研究しています。日本など大半の先進国は少子化、つまり出生率が非常に低い状況で、サブサハラ諸国などの途上国は出生率が非常に高い状況があります。先進国も途上国もこのような人口動態により様々な問題に直面しています。

しかしながら、各国が直面している人口動態をコントロールする事は非常に難しく、出来たとしても効果がでるまでに長い時間を要します。よって、各国はそれぞれが直面している人口動態どうまく付き合いながら成長をしていく必要があるのです。

「つですか?」

大学院の修士課程においてです。大学院へ進学する、まずは研究テーマを設定しますが、当時は社会保障の中でも特に年金制度に興味があり、年金制度を中心て研究をしていました。

「学生時代で印象に残ったことは何ですか?」

大学時代の恩師に言われた「分からぬなら、今勉強すれば良い」という言葉です。大学4年間は「分からぬ」と口癖のようになってしまった。勉強しないといふ事をこの言葉によつて正当化していいた気がします。ところが、この言を聞いて以降は「勉強しているのは自分のためだ」と思えなくなるようになりました。この言葉がなければ、経済学を続けてい

きて帰つてこれで良かった」と思つた山でした。これは、もう少しスキルを身につけて再チャレンジしたい山です。

「学生時代で印象に残ったことは何ですか?」

私が大学4年間を卒業して以降ずっと思ひ続けている事は、「4年間、もっとしっかり経済学を学んでいれば良かった」ということです。当時はまさか経済学をこんなに長く勉強する道を選ぶとは夢にも思つていませんでした。でも、長い人生においてやりたい事が変わることもあります。

その時に備えて、今の前にある課題を着実にこなしておく事が後々非常に役に立つはずです。

また、私が皆さんにお願いすることは、「答えを早急に求めない」「出来ない」「分からない」を簡単に言わぬことです。私もかつてはそうでしたが、学問は何でもすぐ理解できると思いがちです。もちろん、暗記に頼れば単位はとれるかも知れません。しかし、経済学は暗記をしようとするればその量は膨大で、「理解する」という目的地にはなかなか達する事ができません。ですので、目的地に達するまでは長い道のりを道に迷つている感じがするかもしれません。が、答えをすぐにに求めない余裕を持つてもらいたいと思います。

分からぬなら、今勉強

「その研究を始めたきっかけは何ですか?」

実は、大学生のころは税理士になりたかったのですが(動機は非常に曖昧ですが)、税理士になるために大学院へ進もうと思いつつ、学院入試のために経済学の勉強をやり直したのがきっかけです。

「テーマに関心をもつたのはい

なつたかも知れない言です。

「趣味は何ですか?」

趣味は登山とドライブです。車に乗るのが大好きで6年間で19万キロを走行しました。また、登山も好きで今までには御嶽山、戸隠山、石鎚山など色々な山に行きました。中でも、「一番怖かった山は戸隠山で、初めて「生

時に優しく、時に厳しく

三原先生は時に優しく、時に厳しい感情のはつきりした先生です。雑談などをしている時は、自称関西面白い女としての実力を發揮し、ゼミ内を爆笑の渦に巻き込みます。また、いいことがあった時などは妙にウキウキして、高いテンションで経済学について熱弁をふるなど可愛らしい一面も持っています。しかし、勉強や卒業研究などで真面目モードになると、「喝を入れてゼミ内を凍りつかせるなど、その可憐な姿勢からは想像できません。ですので、目的地に達するまでは長い道のりを道に迷つている感じがするかもしれません。が、答えをすぐにに求めない余裕を持つてもらいたいと思います。

そんな先生のゼミでは、理論経済学を研究しています。学ぶものの中には簡単な数学を使ったものなどもありますが、分からぬ事は先生が丁寧に教えてくれるので学ぶ方も安心できます。卒業研究では、様々な社会現象を対象にその問題解決を研究していくのでスケールが大きく研究し甲斐があります。このような研究を進める中で私は、様々な知識が身に付き、新聞も読むようになり、皮むけて社会人に歩近づけたような気がします(笑)。